

鳥取・広島両県知事会議の議事概要

日時 平成23年8月8日(月)

13:10~14:30

場所 広島県庁知事室

1 障がい者施策の連携について

- 湯崎知事 障がいの特性・強みを活かして就労することが重要。
- 平井知事 我々も、もし参考になるのであれば、農福連携等のモデル事業の実践例をいろいろ作ってきたので、共同研究していただければ、ありがたい。協調して共同の取り組みができないかと思っている。ハートフルの相互乗入れもしていただいた。我々がはじめて「あいサポート運動」に御協力、御参画いただけないか。
- 湯崎知事 広島県では「つながる障がい者プロジェクト」を展開しようとしているところ。その中で、企業を含めたオール広島で、良い取組みを伸ばしていこうと思っている。このプロジェクトは、全体では大きなプロジェクトであるが、「あいサポート」という言葉を採用して、広島県でも使わせていただきたい。(冗談で、)著作権違反を問わないようにしていただきたい。そして、この「あいサポート」というのが広がるように進めていければなあと考えている。
- 平井知事 大きな広がりのある中国地方の施策、中国地方は優しいところだな、と言っていたようなそういう環境を共に作っていききたい。
- 平井知事 障がい者アートの顕彰の場があまりない。できれば広島県と共同なり、あるいは中国地方一円で障がい者文化祭とか、アートの展示会を共同でやればもっと元気が出るのでは。
- 湯崎知事 良いと思う。いくつか県内にある。福山の方にすぐれた作品を出される方がいる。
- 平井知事 そういう能力を引き出すスタッフ(指導員など)のお互いの情報交換の場があってもいいのではないかと思う。「ねむの木学園」とかがやっているようなことも中国地方に広がってくれば良いと思う。美術に造詣の深い先生も広島出身でいっぱいいらっしゃるだろうし。

2 イクメンプロジェクトの連携について

- 平井知事 福祉に関連して、これから一緒にやれば良いな、と思っているのがイクメンプロジェクト。これは湯崎知事が、昨年の育休取得で、全国に向けて大きな提言をされたように思う。広島はイクメンの本場だから、広島藩(広島県)と一緒にやって取り組みをさせていただきたいと思っている。
- 湯崎知事 広島県では平成22年3月に計画策定し、イクメンは、子育て支援施策の中のほんの一部である。育児の問題は「意識改革」の問題が大きい。地域で支える子育てを進めて行く中で、まずは、すぐそばにいる「父親」を取り上げたところ。私の育児休暇取得のように、行政がリーダーシップをとって、意識の改革をやっていかなければならない。育休など中小企業では実施しにくい面もあるが、大企業で育休をやるより、中小企業のそれの方がよほどインパクトがある。
- 平井知事 啓発的なPRは、経済界とともにやっっていけないといけない。鳥取県では専門スタッフを配置し企業回りしているが、なかなか難しいところがある。中国地方の経済界はどうしても中心が広島県にあるので、広島県と一緒に施策連携がやっっていけるとよい。イクメンのノウハウを共有させていただきたい。是非とも列藩同盟を組み、その輪を広げていければと思う。我々若手知事が率先してやっっていかなければならない。

3 首都機能の分散・バックアップについて

- 平井知事 鳥根県とは話をする機会がよくある。原発立地県に対する思いやりを持たないといけないと思うが、万一の際の避難は、やはり、ある程度まで遠くに逃げる必要がある。鳥取県西部地域の行政機能や警察署など、どうしていくのかといった深刻な問題がある。広島県は、原発から一歩引いたところにあるので、原発隣接県といえど

も安全圏でもあるので、我々に協力していただきながら、原子力安全対策を進めていければと思う。

○湯崎知事 広域避難は、島根県の溝口知事からも話を承っているので、鳥取県、島根県、岡山県、広島県といった原発に比較的近い4県で、まずは頭の整理をして、万一の場合には広島県でしっかりと非難の受け入れをできるように考えていかなければならない。これから、いろんな計画を立てられると思うが、広島県としてできることは御協力させていただきたい。

○平井知事 島根県と鳥取県は、年内ないし年度内に広域避難の考え方をまとめていこうとしている。広島県の防災担当部局には御協力いただいて、東日本大震災後の安全対策をしっかりとやっていきたい。

○平井知事 これからの安全や日本の軸を考えていったときに、背骨と肋骨を合わせたマトリックスが必要となってくる。道路網などのインフラ整備が必要で、中国地方の中心である広島県にも理解いただきたい。江府三次道路も災害時に有効になると考えられる。鍵掛峠道路の整備は国の直轄事業でやっている。これが国の予算獲得の面でボトルネックとなっており、進捗がはかどらない。鳥取・広島で連携して予算確保につなげたい。

○湯崎知事 おっしゃるとおり、広域避難の面でも、そもそも論としてもインフラ整備は、山陰地方の大きな課題と認識している。首都機能の脆弱性も高めることにつながっている。骨格はきちんと整備していくべき。広島県は皆さんのおかげで、比較的早く高速道路などの整備が進んだ地域。私どもも山陰地方のミッシングリンク解消に御協力申し上げたいし、一緒に共同して取り組んでいきたい。

○平井知事 地質的・地理的に、(地震災害の面で)中国地方は比較的 안전한地域。本社機能などが、首都圏に集中している現状が正常なのか。広島とか中国地方に分散させることができないのか。

○湯崎知事 首都機能のバックアップというだけでは不十分。何か事が起こったときにやりますではダメ。根本的に、平時から多極分散型の国家を作っていかなければならない。リスク対策だけではなく、日本の発展論として目標を一つに定めてやっていかなければならない。本物の機能が分散して存在することがリスク分散にもつながる。それが地方分権だと思うし、腹を据えて地域主権を考えていかなければならない。そういうものの中で、高速道路の問題も整備していくべきものだと思う。

○湯崎知事 中国地方は、人口約700万人。これはスイス連邦と同等規模。スイスは、何か資源があるかという点、山ばかりで地下資源もない。観光資源としてのアルプスくらい。だが、一人あたりの国民所得は高い。それに対し、中国地方は、海も港も山も、資源は十分にある。スイスになり得るくらいの資源はある。

○平井知事 是非、経済機能を含めた分散型の国家像を、中国5県共同して活力を呼び込むことのために、共同して作っていくことが必要。瀬戸内海と日本海は意外に近い。(瀬戸内側は、)アメリカなどに向かっていくし、(日本海側は、)特に韓国・ロシアなどが近い。上手に(日本海側と瀬戸内側を結ぶ)高速道路網と併せて使っていくことで、(中国地方が)シンガポールやスイスのように、一つのまとまった経済圏域、まとまった強い地域に成長していく必要がある。是非、物流だとか、人の流れだとか考えながら、お互い、中国地方として、どういうインフラストラクチャーの整備を進めていくべきか、国に対しても強調していきたいと思う。

○湯崎知事 中国地方は、日本海にも瀬戸内海にも面している。また山もあり海にも面しているといった非常に素晴らしい地理的条件にある。見方によっては弱点にもなるかもしれないが、同時に強みでもある。そういう強みの面で、物流など、日本海からアジア・ロシアに向けたネットワークもあるだろう。瀬戸内海は交通の大動脈であるので、世界に向けて物資を運ぶということもある。

○平井知事 私どもも境港という港があり、環日本海拠点港湾を目指そうとしている。今週、国のヒアリングを受けることになっている。この港湾を利用して、ロシアへの日本で唯一の定期的な貨客船航路ができており、これに広島県の農業団体が関わって、こちらの産物を売りに行くというようなことも始まってきている。もっと中国地方の距

離感の近さを上手に活かしていけば、それぞれの地域が発展していくものと思われる。特に日本海と瀬戸内海を結ぶ地域には、大きな山が、中国山塊が横たわっている。恐らく、中国山地が、広島県にとっても、なかなかその中山間地の解消とか、中山間地問題の解消だとか難しい課題があるかと思うが、ここは一つのコリダーになって、回廊として活かされるようになって、また活用が見込まれる材料になってくると思われる。県境にとらわれない、そういう一つの共和国的な、共和国のような見方をしていただければと考える。

4 自然・再生エネルギー対策について

○湯崎知事 広島県では特区構想の提案を仕掛けている。福山市沼隈町のあたりで、神原汽船を中心にして、地域でエネルギーをまわしていくというプロジェクト。造船の原動機を非常時に発電所として使う。普段は太陽光発電を蓄電して車の燃料にしたり、家庭で使うなど、いろいろなことをやろうとしている。

○平井知事 境港も上海航路は神原汽船が担っておられる。

○湯崎知事 自然エネルギーに関しては、鳥取県がうらやましい。風力発電など、鳥取は充実している。有利だし。

○平井知事 そういう意味で、自然・再生可能エネルギーは、この際大いに活用して、新しい時代の扉をともに開いていけたらと思う。湯崎知事も7月の自然エネルギー協議会に参加しておられたが、中国地方は、自然エネルギーの保存量が多い地域であるので、特区を活用して、様々なところでやっていきたいと思う。鳥取でも既に県西部で取り組みつつあるものもある。

5 観光連携について

○湯崎知事 NHKの朝の連続ドラマは、鳥取県の「ゲゲゲの女房」、その後、広島県で「てっぱん」と続いた。「てっぱん」の主人公を演じた瀧本美織さんは鳥取県出身。そして来年は、平清盛の大河ドラマと続く。今回、平清盛のキャラクター、ロゴを公募で作った。境港の話も含めて、様々なコンテンツが観光振興の重要な鍵を握る。今がまさにチャンスである。韓国ドラマでは、鳥取県のアテナに続き、サインのロケが広島県内でもあったので、これらを活用し、連携を進めていきたいなと思っている。

○湯崎知事 広島県では、今年度から3年間大規模キャンペーンを進めようとしている。平成24年度は平清盛で、平成25年度は、JRのデスティネーションキャンペーンが組まれる。「瀬戸内海の道構想」を進めており、こういう機会にいろいろな周辺地域（中国・四国地方）も回ってもらって、一体化した地域としてブランド化してやっていきたい。また、鳥取の方でも様々なコンテンツをお持ちのようなので、連携して国内外からの誘客を進めていきたい。

○平井知事 特に海外からの誘客を共同してやっていきたいなと思う。物の風評被害以外にも、人の風評被害がある。これらを打破して海外からの誘客を進めていく必要がある。統計をとってみると、東京などに比べ、中国地方は圧倒的に観光客が少ない。中国地方には、食べ物、温泉、歴史・伝統的なものなど海外からの観光客が求めるものは何でもある。プロモーションが足りないと言わざるをえないのではないか。反省を込めて新規にまき直していかなければならない。中国5県の中でも広島県がリーダーとなって食い込んでもらえたらと。お客さんの流れを作っていく必要がある。近々、計画している台湾の現地プロモーションは、台湾・中国・韓国を対象とした巨大マーケットを相手にして、湯崎知事と一緒にやっていくことができたと思う。

○湯崎知事 広島県にもいろいろ観光施設はあるが、過去、点でバラバラであった。鳥取県が準備した説明資料にも記載されていたように、観光客数は広島県だけなら“そこそこ”ある。これが中国地方全体につながっていない。点ではなく、面として国内外の観光客に認知していただいて、周遊していただく必要がある。共通のブランディングをしていくことが大事。

○平井知事 ブランディング戦略としてメディアを使うのは賛成。韓国なら韓国に絞って、アテナ、サインを組み合わせる、韓国に対して売っていくような戦略を見直すべき。単独の1県だけではなく、複数の県、中国地方な

どが連携してロケの誘致をすることも考えられる。地域一体としての楽しみ方の提案などが考えられる。

- 湯崎知事 広島県は、欧米からの観光客の割合が多いが、今後は、中国や台湾に対しても力を入れようと思っている。中国、台湾は所謂「伸びしろ」である。中国四川省は、27年の友好提携があるのでこれを活かして売り込んでいきたい。逆に、日本人も四川省へ行かなければならないと思っているので、日本人に対してのデスティネーション（大型観光キャンペーン）を行う必要があると感じている。鳥取県も含めて地域全体を回っていただけるようにしていきたい。また、上海からの誘客にも取り組みたい。
- 湯崎知事 台湾からは、広島への航空便（チャイナエアライン）があるので、広島空港を経由していろいろ回っていただくことも可能かなと思っている。
- 平井知事 もっとこ入れしていかなければならない。今後の伸びしろは東アジアである。韓国アジアナ航空は、米子鬼太郎空港や広島空港に就航しているので、アライアンスを組みやすい関係にある。それら空港間を結んで旅行商品が組みやすい。上海は、関西広域連合で先月行ってきたところ。向こう側は、一つの県に興味はない。旅客ニーズに適合した周遊旅行商品の提案を行っていかねばならない。

6 今後の両県知事会議について

- 平井知事 湯崎知事さえ御理解いただければ、次年度以降も知事会議を継続していければと思うが。
- 湯崎知事 是非とも。
- 平井知事 例えば、今度は境港の鬼太郎ロードで、やらせていただきたいと思うし、お子様も鬼太郎が怖くなければ、お越してください。イクメン列藩同盟として御招待したいと思います。

7 報道質疑応答

①記者 今回の両県知事会議の大きな目的は何か。

○湯崎知事 広島と鳥取は県境を接している。意思疎通を図っていく。共同で取り組めるものは共同で行っていくということ。

○平井知事 東日本大震災もあり、この国のあり方を考えていく中で、原子力安全で広島県の協力も得られた。

②記者 鳥取と広島は、離れているというか、連携しにくい地域なのでは。

○湯崎知事 物理的な距離はあるが、中国地方のまとまった地域内での両県なので、心理的な距離を縮めていくことが必要。

○平井知事 経済圏域はもちろん、障がい者を含めた生活圏も一つになっている。海外からの誘客、国家像を考えるときに県境は関係ない。今後はタッグを組んでいかなければいけない。

③記者 今日何か具体的な成果が得られたのか。

○湯崎知事 いろいろな成果があったと思う。観光面でもそうだし、原子力の安全を考えるときに両県の協力というものも重要。我々も「あいサポート」という言葉を使わせていただくことになったし、障がい者施策も連携していくということであるので、様々今日出た話題それぞれにおいて、いろんな成果があったんじゃないかなと思う。

○平井知事 あいサポート運動だとか、イクメンのプロジェクトだとか、両方で心温まるやさしい地域社会を形成していくことの原則合意が取れたことは、大きな出発点かなと思う。さらに客足が減っている海外からの観光客に問題に対しては、共同でプロモーションをかけていこうと、特に海外に向かっているというものは、我々にとっては心強い限りであったと思う。

④記者 広島県は（観光振興で）中国方面に弱かったということで、そういう面でも鳥取県とうまく連携できそうか。

- 湯崎知事 これは中国地方全体との連携の話かなと思っている。そもそも、中国地域発展推進協議会でも観光面では連携して進めていきましょう、ということを決めているので、中国地方と中国は、「中国」つながりでもあるんだけれども、これは連携しながら進めていきたいと思う。
- 平井知事 広島県は、中国東方航空などが就航し、起点となっている。さらに鳥取は、上海の春秋航空という大量にインバウンドを持ってくるところに誘致を呼びかけているところ。周遊ルートを組みなれば、お客さんは飛行機に乗ってやってこない。鳥取側の事情もあり、広島側と一緒に旅行商品の開発をやっていけるということになれば、これは大きな強みになると思う。
- ⑤記者 平井知事が、原発事故に関する鳥取・島根の広域避難対策を考えていく必要があるとおっしゃっていたが、湯崎知事はどのようなスケジュールを考えているのか。
- 湯崎知事 鳥取・島根両県で広域避難計画をこれから考えていくということですので、そのスケジュールに合わせて広島県でも御協力を行っていくということ。
- ⑥記者 首都機能のバックアップについては、これは具体的な成果があったと思うか。
- 湯崎知事 双方の基本認識が共通するところである、ということが確認できたこと。ミッシングリンクをきちんとつなげていくことも重要であるし、中国地方として、その解消に向けて共同していくといったことが成果。
- 平井知事 首都機能分散のための基礎条件を、インフラストラクチャー含めてやっていく必要があるというのが共通認識できたところ。これを手がかりとして、東日本大震災後の国の形を鳥取県としても目指していきたいと思う。
- ⑦記者 平井知事の事前の発言（定例記者会見）として、「中国地方のリーダーとして広島県がやっていくべきものがある」が、鳥取県としては、その中でどういった立場でやっていくつもりか。
- 平井知事 山陰と山陽は、相補い合う関係にあると思う。補い合うことができれば、これは、中山間地域、中国山地を含めた振興にも大いに役に立つことができると思う。それぞれの役割を果たしながら、それぞれが補い合うところを上手に補い、そのプラットフォームを作るべきだと思う。これから多極分散型に向かわざるを得ないのが日本の現状だと思う。その中で中国地方として受け皿をきちんと用意していくために、我々は、広島とか岡山など大きな都市があるが、これらの接着剤の役割を果たし、活力の中心地をこちらにもう一つ形成できるようにしたいと思う。